

線状降水帯による豪雨によって、河川の氾濫や土砂災害などが相次いでいます。災害と人権は命を守るという観点で結びついています。災害時、自分だけではなく周りを思いやることが大切です。一人ひとりの人権と尊厳を守るという考え・視点が不可欠です。



山梨県の不登校支援について考える

山梨県でも、不登校は一部の家庭だけの問題ではなくなっています。文部科学省の令和6年度調査では、県内の小・中学校の不登校児童生徒は 2,337 人(小学生 844 人、中学生 1,493 人)。在籍 1,000 人当たり 41.2 人で、全国平均 38.6 人を上回りました。令和4年度からの2年間で約2割増えており、令和6年度は過去最多となっています。

背景を「本人のやる気」や「家庭の問題」だけで説明することはできません。県が長期欠席児童生徒の保護者 771 人を対象に行った調査からも、心身の不調、生活リズム、学校環境や人間関係、発達上の特性、家庭環境などが複雑に重なっている姿が見えてきます。また、子どもの欠席に対応するため保護者が仕事を休んだり、離職したりするケースもあり、不登校は家族全体を支える視点が必要な問題です。(※1)

この調査では、保護者が学校(教育委員会)に特に求める支援について、「学校が安心できる場所になってほしい」を「強く望む」割合が最も高く 61.0%、次いで「在籍学校内に、教室以外の居場所をつくってほしい」が 46.7%、「学校外支援(教育支援センター、フリースクール、居場所など)と在籍学校の連携をしてほしい」が 42.5% となっています。学校や教育委員会等も、これらの要望にしっかり応えていくことが求められます。

県教育委員会は、スクールカウンセラーによる心理面の支援に加え、福祉との橋渡しをするスクールソーシャルワーカーを令和8年度、小中学校関係に 20 人、高校関係に 3 人配置しています。さらに、フリースクールなど学校外での学びを出席扱いにできるガイドラインも整備し、「学校へ戻ること」だけを目的とせず、子どもの社会的自立と学びの継続を重視する方向へ転換しています。

隣の長野県には参考になる取り組みがあります。県独自の「信州型フリースクール認証制度」を設け、一定の基準を満たした民間施設を認証し、運営費を助成しています。2026 年 8 月時点で累計 52 か所が認証され、学校、教育支援センター、フリースクールなど複数の学びの場を地域全体で支える仕組みがつくられています。(※2)

山梨県も 2028 年 4 月、県立夜間中学と「学びの多様化学校」を併設した新しい中学校を開校する予定です。学びの多様化学校は、不登校やその傾向にある生徒が、一人ひとりの状態に応じた教育課程で学べる正式な学校です。「わかる・できる・楽しい」と感じられる学びを掲げており、新たな選択肢として期待されます。(※3)

そして家庭で最も大切なのは、親子だけで抱え込まないことです。まず担任、養護教諭、スクールカウンセラーなどに相談し、話をしにければ山梨県総合教育センターを利用できます。保護者だけの面談やオンライン相談にも対応しています。「やまなし子供 SOS ダイヤル」(0120-0-78310(なやみいおう))は、24 時間 365 日利用できます。(※4)

登校できるかどうかだけでなく、「この子が安心して生活し、学び、人とつながり続けられるか」を中心に、家庭・学校・医療・福祉・民間が一緒に考え取り組んでいくこと。それが、これからの不登校支援にとりわけ必要な視点ではないでしょうか。

(※1) 山梨県「長期欠席児童生徒家庭を支えるための家庭環境実態調査結果」

(※2) 長野県「信州型フリースクール認証制度」

(※3) 山梨県「令和10年4月開校予定 山梨県立夜間中学・学びの多様化学校 校名募集」

(※4) 山梨県「教育相談・子育て相談 一覧」

第6回チャリティーゴルフコンペ 10月4日(日) 昇仙峡カントリークラブにて開催

チャリティーゴルフコンペにて集まりました支援金は、甲府市・甲斐市・笛吹市の福祉活動へ寄付いたします。

命の大切さを伝え
いじめをなくし
思いやりのある社会に

活動報告	人権啓発パネル展	9月3日(木)～9月16日(水)甲府市東公民館、甲府市西公民館において、人権啓発パネル展を開催しました。
	人権啓発映画鑑賞会	8月21日(金)リッチダイヤモンド総合市民会館において、映画鑑賞及びディスカッションを行いました。
	人権移動教室	9月8日(火)甲府市立相川小学校、9月18日(金)甲斐市玉穂小学校において、人権移動教室を開催しました。

＜お詫びと訂正＞先月号にて、甲府市立相川小学校の人権移動教室が9月2日(水)となっておりましたが、正しくは9月8日(火)となります。お詫びと訂正を申し上げます。

人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。



**国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨**

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

**会長：横山隆史
理事長：横山美香**

＜協賛＞
山梨県
甲府市
甲斐市

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

甲府市立上条中学校 1 年生女子

題名 人権とは

人権は命と幸せということが分かりました。人権は聞いたことがあったけれど意味をとりかえてしまっていたので正しい意味を知ることかてきたので良かったです。国境なき医師団の活動を見て、世界には私達の知らないところで動いてくれている人がいて、そのおかげで私達は今、不自由なく生活しているんだと実感できたのと同時に、そうした人たちのおかげで誰かの人権が守られているんだと感じました。私にできることを探したいのと小さなことでも誰かの役にたつならそうしたいし、まずは自分と相手のことをよく理解して相手の役にたきたいなと思います。私は国境なき医師団みたいにそんなに大きなことはできないけれど、小さいことでも人に親切にする、それだけでも誰かの役に立つのかなと思います。たとえどんなに小さくても人に親切にすることを意識し生活したいです。

甲府市立上条中学校 1 年生女子

題名

私は、今回の「人権移動教室」の公演を聞き、「国境なき医師団」の存在を初めて知りました。特に私は、自分の身を危険にさらしているのにもかかわらず、いろいろは新人行き、人々を支えていることはどれほど勇気のいることだろうととても深く興味を湧かされました。自分にはそんな大きな人助けはできませんけれど、今、自分にできることは何かを考えると、みんなに小さなことでも「国境なき医師団」の方々のように何事にも臆さず、人助けをしたいと思いました。また、公演してくださった松崎さんの体験にも興味を湧かしました。海外での少女の行動は、私にはできないかと思うたからです。どんな思いでめめたのか、どうしてすぐに行動できたのか。私もその女の子のように言葉だけにならうが、目に入らうぐに行動できる人になりたいと思いました。